

復帰をどう教えるか！

～50年目の沖縄、キーワードをもとに！～

それぞれの項目が授業のヒントとなるよう作成しました。さらなる質問等、大歓迎です！

はじめに

1972 年 5 月 15 日、沖縄は日本に復帰した。沖縄が復帰した、ということは「南国の楽園が日本国内に誕生した！」ということではない。「米軍が自由に（あるいは勝手に）使える港湾や空港や演習場などが日本国内に誕生した！」ということに他ならない。あの日以来、「沖縄の負担軽減」という美辞麗句が飛び交いながら、全国の沖縄化が始まった…

戦後 27 年間のいわゆる「異民族支配を脱して祖国日本に帰ってきた…」とノスタルジックに語られることの多い「復帰」について振り返ってみたい。

※ 取り上げたい内容は多岐にわたりますが、ここでは以下のテーマですすめていきます。

一、復帰前（米軍統治時代）

- 1 ドル時代 … ドルに「守られた」沖縄の経済、高等弁務官
- 2 教育 … 米留、国費・自費制度、沖縄教職員会の全国行脚（愛の教員）
- 3 基地問題
- 4 復帰直前の混乱 … 「730」、ドル交換、琉球切手、沖縄そば
- 5 平和憲法のもとへ

二、復帰後

- 1 全国の沖縄化 … 「沖縄の負担軽減」の名のもと米軍演習等の全国展開



一、復帰前（米軍統治時代）の沖縄

1、ドル時代

① 強いドルに「守られた？」沖縄 … 奇妙な安定感？！

米軍統治下の沖縄は、「強いドルに守られた」経済状況であり、復帰直前になるまで極端な物価の上昇はあまりみられなかった。（菓子パン…5セント 塩せんべい…1セント、などが長く続く）

終戦直後、ドル時代の前に沖縄のみで使用された「B 円」と呼ばれる通貨（軍票）がある。アメリカの沖縄統治の根幹は、住民の安心安全・幸福などではなく「基地の安定した運用」に尽きる。そのためあって、B 円は日本の円や他国の通貨に対しかなり高めに（強めに）設定されていた。

【当時のレート】 1 ドル＝120 B 円、1 ドル＝360 円 ⇒ $B円 : 円 = 1 : 3$

⇒ 円の3倍の価値を持つ B 円で、日本本土から安く資材を買うことができた。基地建設を急ぐ！

⇒ B 円、そしてその後流通したドルは価値が高く、「つくるより外国製品を買った方が安い」ため、製造業がなかなか発展しなかった。そのため沖縄では雇用の受け皿が少なく、基地関連や観光業など第3次産業中心の産業構造につながっていく。

※ 結果として、基地依存型の経済状態が長らく続くこととなった。



② 高等弁務官 … (1957 年～72 年までの15年間に6人)

高等弁務官は現役アメリカ陸軍将官から任命され、その権限は「沖縄の帝王」と呼ばれるほど強大だった。しばしば琉球政府の施策に介入したが、逆にそれが沖縄住民の反発を買い、復帰運動の激化をもたらすこととなる。

1961 年、3代目高等弁務官となったキャラウェイ中將は特に強権的で、「自治神話論」を唱えるなどしばしば立法院の議決さえ無視し「キャラウェイ旋風」の異名を残した。沖縄と日本の分離を強めようとするキャラウェイに対して当時のケネディ大統領は危惧を抱き、64年に解任。



キャラウェイ中將

2、教育

① 米留（アメリカ留学生）と金門クラブ

※ はじまりは、「ハワイ沖縄救済更生会」が募集 … 5 名がハワイ大学へ（1948 年）

- ・ガリオア資金の運用や米陸軍省の援助で 1970 年まで存続
- ・1,110 件（うち、博士号取得 28 名、修士号 262 名、学士号 155 名）
- ・帰沖後の勤務先 … 米国民政府、琉球開発金融公庫、電力会社、水道公社、琉球銀行、教員など
- ・留学経験者の会「金門クラブ」で月例会をもち、親睦と相互啓発、学習会等

ゲストスピーカー … 歴代の高等弁務官や副民生官が多い（キャラウェイの自治神話論も）

※ 県民からは、「エリート集団」「アメリカ親衛隊」「権力亡者」などと言われたりした！

※ 沖縄の有力な企業人、学者、政治家、教員などを生み出す原動力となった面も！

② 国費・自費制度 （1953 年～80 年 毎年、国費 160 名・自費 100 名程度：復帰後減少）

- ・沖縄の人材育成のために、文部省（当時）が取り入れた制度。沖縄の高校卒業生による選抜試験で、国費学生は授業料免除や生活費補助があり、また琉球育英会より奨学金などが付与された。

⇒ 根底に沖縄の学生の低学力問題と、県内大学の施設や教官陣容の貧弱さが…

- ・特に医師や歯科医師の養成に力点が置かれていたが、1980 年に廃止。

⇒ 沖縄の高校生の本音：「県外の高校生にバレたくないな…」

- ・70 年代まで、沖縄の受験生たちの「目標」だった



③ 「愛の教具」運動 … 沖縄教職員会（現・沖縄県教職員組合）による全国行脚（寄付金集め）

沖縄戦（鉄の暴風）後、ほとんどすべての校舎が失われた沖縄において、その復興は最大の目標だった。沖縄教職員会の屋良朝苗会長らは全国をまわって「戦災校舎復興」の寄付を募り、当時の金額で6千万円もの大金を集めた。しかし米軍の圧力により建物建設には使えなくなったため、教育備品（図書、教具、楽器など）を購入、それらは「愛の教具」と呼ばれ各学校に配布された。



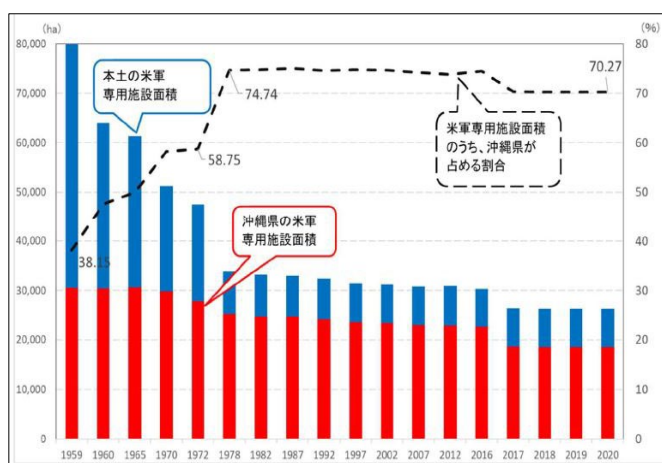
※ 1952 年末より、全国で募金活動 … 全国の児童生徒による「1 円カンパ」など

※ 沖縄少年会館…教職員会を中心とする「沖縄子どもを守る会」が建設（初のプラネタリウムなど）

3、基地問題 … 「事件・事故と犯罪の温床」(多すぎて…)

① 全国各地にあった米軍基地が…

沖縄の米軍基地建設は、場所によっては沖縄戦の最中にも始まっている。それでも敗戦後しばらく米軍基地は日本各地に存在していた。53 年以降、朝鮮半島情勢を機に米海兵隊は、岐阜・山梨・静岡などに配備された。各地で反基地運動が激しくなり、56 年、多くの基地が米軍占領下にあった沖縄に移転してきた。沖縄は朝鮮半島から遠く、軍事的合理性とは無関係におもに政治的な理由で、海兵隊は沖縄にやってきたことになる。



【50 年代終わり頃から本土の米軍基地は減り続けるが…】

(東京都立川飛行場の「砂川闘争」などが広く知られる)

国内の反基地(反米)運動の広がりを日米両政府が懸念し、「じゃ、沖縄ならいいか…」という思いが米軍側に、そして当然、日本政府側にもあったのではないか!

② 繰り返される米軍がらみの事件・事故

⇒ 性犯罪の異常な多さ

⇒ 沖縄(日本)側の警察の無力さ … 治外法権など幕末の「不平等条約」を思わせるほど

⇒ 加害者(犯人)が逮捕されても「軽い」罰で済んでしまう理不尽さ

a 由美子ちゃん事件 1955 年 9/3 (嘉手納村…遺体発見現場、石川市)

…遺体には乱暴された形跡が認められたほか、着用していたシミーズが左手のところまで垂れ下がり、左手に草 2、3 本が強く握りしめられているなど、抵抗した痕跡も確認された。また、下腹部から肛門にかけて、鋭利な刃物で切り裂かれたような傷跡もあった。一方、発見現場に荒らされた形跡がないことや、遺体の頭部に砂が付着していたことから、被害者は遺体発見現場とは別の場所で暴行・殺害され… (Wikipedia)

b 宮森小学校ジェット機つい落 1959 年 6/30 (石川市)



米軍のジェット機が石川市(現・うるま市)の宮森小学校付近につい落。小学生をふくむ 18 名が死亡。米軍司令官は「市街地をさけ機をコントロールした」とパイロットを絶賛。県民の激しい反発を受けた。

c 国場君れき殺事件 1963 年 2/28 (那覇市)

青信号を渡っていた男子中学生が、米軍兵士の運転する車両にひかれ死亡。「信号が夕日に反射して見えなかった」と主張した米兵は軍事裁判で無罪となる。



d 園児れき殺 1965 年 4/20 (宜野座村)



復帰行進に参加していた写真家の嬉野京子さんが宜野座村内で遭遇した米軍兵士による交通死亡事故。

沖縄（日本）の警察は犠牲になった園児に手を触れることさえ許されなかった。⇒ 撮影も命がけ！

e トレーラー落下による女児圧殺 1965 年 6/11 (読谷村)



米軍機によるパラシュート投下訓練中、投下されたトレーラーが落下予定地点（読谷飛行場）をそれ、10歳の女の子を圧殺。

村内ではこれ以外にもパラシュート投下訓練中の事故が続出し、村民に大きな不安と犠牲をもたらした。（燃料タンク落下、4トンのコンクリート片落下、ジープや武器の落下、など…）

f コザ騒動（暴動）1970 年 12/20 (コザ市)



米軍関連の事件・事故が多発し県民の不満が限界までに高まっていたなか、酒気帯びで運転する米軍人の乗用車が交通事故を起こした。怒り狂った群衆は、黄ナンバー車を片っ端から放火するという大騒動に発展していった。

g 少女暴行事件 1995 年 9/4 (復帰後ではあるが) 変わらない基地被害！

1995 年(平成 7 年)9 月 4 日午後 8 時ごろ、沖縄県国頭郡金武町のキャンプ・ハンセンに勤務するアメリカ海軍水兵 3 名が基地内で借りたレンタカーで、北部の商店街で買い物をしていた女子小学生(12)を拉致した。小学生は粘着テープで顔を覆われ、手足を縛られた上で車に押し込まれた。

その後近くの海岸に連れて行かれた小学生は強姦され、負傷した。(Wikipedia)



事件に抗議する県民総決起大会が 10 月に開かれ、8 万 5 千人が集まった。超党派で開催され、県内のバス会社は参加者を無料で乗車させるなど、沖縄県民の怒りと意志がひとつになった集会だった。

③ 基地があるから沖縄は…？！

ネット上でよく飛び交う言葉に「沖縄は基地のおかげで潤っている」というのがある。もしそれが事実なら戦後 77 年、基地とともにある沖縄は全国一の富裕県となっているはず。しかし、全国最悪の失業率に全国ワーストの県民所得が「基地の島・沖縄」の現実を示している。



基地は、たしかにいくばくかの金を落としはする。しかし何も生産しない。生産するものがなければ、もはやそれは産業とは呼べない。そして一向に減らない米軍関係の事件・事故。そのたびに日米両政府は「綱紀の粛正、兵士教育の徹底」を強調するが…。

解決策はただひとつ、すべての軍事基地の撤去しかない。



4、復帰前の混乱

① 730（ナナサンマル）… 1978 年 交通区分の変更（空前の大実験！）

米軍統治下の沖縄では、交通区分もちろんアメリカ式で車は右側通行だった。復帰後は「一国一交通制度」の原則にもとづき、1975 年の変更をめざしたが、準備の遅れや沖縄海洋博覧会開催（76 年）を優先させるなどの事情もあり、78 年に実施された。交通標識等の変更、乗用車・バス等のハンドルや乗降口の変更、信号機の設定等々、ある意味、復帰を象徴する一大プロジェクトだった！



↑ シャツの柄にも ⇒

② ドル交換

日米両政府にとってドルと円の交換は、復帰に関する最大の懸念材料だっただろう。1 \$ = 360 円のままなら単純な作業だったかもしれないが、復帰を前に「ドルショック（ニクソンショック）」と呼ばれたドルの暴落が起きた。⇒ 「ドルと金との交換停止」措置による

（この時期、ウチナンチュは「悪貨は良貨を駆逐する」状態をしっかりと目撃した！）

たちまちドルが下落し、1 \$ = 305 円となった。このままだと沖縄県民は大損害を被る…

- ・県民の手持ちの資金を 1 \$ = 360 円のレートで保障することに！（差損保障）
- ・360 円を保障する際の問題点 ⇒ 世界中から投機マネーが集中しかねない！



そのために

- ・県民が「今」持っているドルを（1 枚 1 枚！）確認する必要がある！
 - ・ドル交換の前に「ドル確認」… 住民の手持ちのドルにスタンプを押す！
 - ※ 1 ドルにつき 55 円の差額 → 庶民にはあまり感覚がないが…
 - ⇒ 実際、私（下地）の友人（当時、高校生）でこんな話をする者がいた！
 - 「305 万円を 1 万ドルと両替しておく、それが 360 万円になる！」
 - ※ 架空名義の預金の多さ → 税金逃れ？
 - ・県民への通知 … 早すぎると投機が殺到、遅いと県民に通知できない
- 極秘とされた X デーの 1971 年 10 月 9 日、県内一斉に「手持ちドルの確認」（確認日の公表は前日の 8 日。9 日は早朝から全県で広報車がかけまわった）



③ 琉球切手、沖縄そばなど



復帰前までは単に「そば」とよばれていたが、復帰後は「沖縄そば」と呼ばれるようになった。

(単に「そば」ではダメに！) ⇒なぜ？

↑ 独自のデザインと鮮やかな色彩を持ち、人気を博した。

5、「祖国」復帰 … 1972年5/15

① 平和憲法のもとへ！？



那覇市民会館（与儀公園となり）で行われた「復帰式典」の様子。屋良朝苗県知事（当時）は、「…必ずしも私どもの切なる願望が入れられたとはいえない…」とし、基地の問題等についてかなり踏み込んで述べている。

式典会場の外では、広大な米軍基地を残したままの復帰に抗議する、多くの県民の姿があった。

沖縄県民がのぞんだ「復帰」とは「平和憲法のふところに帰り、核も基地もない新しい沖縄県」をつくりあげることだった。

県民の願いは実現したのだろうか…



敗戦後、銃剣とブルドーザーをもって軍事基地とされた私たちの大切な土地。県民が望んだ平和憲法のもとへ…という復帰とは全く違うものだったといってよい



【配られなかった復帰メダル】

日本政府は 72 年 4 月に「祖国」復帰を祝って、20 万枚の銅製メダルを作成、県内の小中学生に配布する予定だった。しかし米軍基地の維持が明記された返還協定に対する反発などから、沖縄組は児童生徒への配布を拒否。メダルの配布は一部にとどまった。

② 変わらず続く基地関連事件・事故

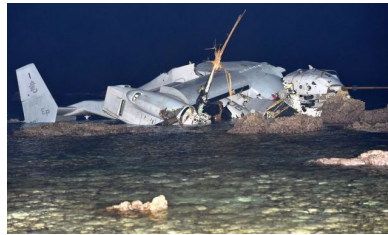


沖縄大に米軍ヘリが墜落・炎上！

(2004年8/13)

この事故による死者は出なかったが、まさに一歩間違えれば…の瀬戸際だった。

学問・研究の場所に軍用ヘリが落ちてくるという沖縄の現実！



オスプレイが海岸に墜落！

(2016年12/14)

名護市安部の海岸に米軍のオスプレイが墜落。県内では、報道等で「一歩間違えれば」という表現が頻繁に使用される…。

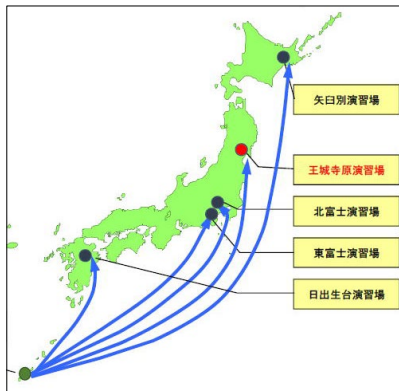
数え上げればきりが無いほど、米軍がらみの事件・事故は多く発生している。それもあってか、日米両政府は「沖縄の負担軽減！」という名目で軍事演習等を全国に展開し始めた。

二、復帰後

1、全国の沖縄化 … 変わらぬ米軍支配「沖縄の負担軽減？」

【例として】

① 実弾砲撃演習の全国展開



「県道 104 号線越え実弾砲撃演習」の移転（1997 年より）

県道を封鎖してその上（県民の頭上）を実弾が飛び交う、という極めて乱暴な演習が沖縄で行われていた。あまりにも危険なため、県民の抗議が強まり、104 号越え演習を取りやめることになった。しかしその後、「沖縄の負担軽減をはかる」という美辞麗句で、実弾砲撃演習が全国に広がる結果となった。

② オスプレイの全国展開（自衛隊への配備も含む）

2012 年 12 月、県民の反対を押し切り 12 機のオスプレイが普天間基地に配備された。現在では、米軍のみならず自衛隊もオスプレイを導入し、演習時も含めると全国各地に展開している。たとえ地元住民が反対しても、「沖縄の負担を少しでも軽くしてあげましょう！」との美しい言葉には逆らえないのかもしれない。

（佐賀空港 木更津 横田基地 岩手県滝沢で演習 宮城県王城寺原 茨城県百里基地など…）

おわりに 「沖縄のオジー、オーバーは優しい！？」

最初に述べたように沖縄の日本復帰とは、「国内に南国の楽園が誕生した！」ということではない。かつて沖縄でやりたい放題だった米軍が、全国でも同様にふるまえるようになった、ということ。全国の沖縄化が着々とすすんでいるのだと思う。

県内に観光にきた若い女性たちがインタビューにこたえて、「沖縄のオジー、オーバーって優しい、か



わいい！」などと発言する。鉄の暴風と呼ばれるほど過酷な沖縄戦を生き抜き、言葉にできないほどの苦しさやつらさ、悲しみ等を乗り越えてきたからこそ、今のオジーやオーバーの姿があるのだろう。

職場の仲間たちとともに沖縄を語り合い、子どもたちとともに未来の沖縄を考えること、少しでもその一助になれば幸いです。

【もしかして教材？】

1、パスポート … 実は「パスポート」ではなかった！？

沖縄から日本「本土」へ渡るときに使用された。ごく普通にパスポートと呼ばれていたが、これは単なる渡航証明書であり外国に行くためには正式なパスポートを必要とした。



2、946ml のヒミツ

復帰前からある県内業者の牛乳パック等は、県外のパックのように 1000 mlではなく、946 mlになっている。ヤード・ポンド法を用いていたアメリカ式の表記だった。4分の1 ガロンと1 Lに近いため。（日本人にはあまりないクォーターの感覚）

	合	立方センチメートル	リットル	ガロン(英)	ガロン(米)	立方インチ	平方フィート	バーレル
合	1	180.39	0.18039	0.0397	0.047654	11.0087	0.00637	0.001135
1立方センチメートル	0.00554	1	0.001	0.00022	0.00026	0.061023	0.000035	0.000006
1リットル	5.54352	1000	1	0.21969	0.264172	61.0236	0.0353	0.006292
1ガロン(英)	25.2006	4546	4.54609	1	1.20095	277.42	0.16054	0.028594
1ガロン(米)	20.9846	3785.41	3.78541	0.833	1	231	0.134	0.023807
1立方インチ	0.09083	16.3871	0.016387	0.0036	0.0043	1	0.000578	0.000103
1立方フィート	156.966	28316.8	28.3168	6.2288	7.48	1728	1	0.178167
1バーレル	881.3679	158934.5	158.9345	34.97237	42.00445	9708.738	5.612712	1



3、琉球船舶旗

アメリカ施政権下の沖縄の地位は非常にあいまいで、船舶は「国際信号旗 D 旗」（琉球船舶旗）を掲げて航行した。国際的には通用せず、（1962 年）にはインドネシア海軍から国籍不明船舶として銃撃を受ける第一球陽丸事件が起きた。



4、「琉球〇〇」の流行 … 企業名等に「沖縄〇〇」ではなく「琉球」を冠する名が大流行

⇒ アメリカ側による、沖縄と日本の離間策 … 「皆さんは誇りある琉球国の末裔だ！」と。

のんきな店のちいさなもの

三線店の
ガラス戸をあけると
チャイムが流れたが誰もいない
「ごめんください」と大声で何度も言ったが
誰も出てこない
しかたなく丸椅子にすわり
前にいた人たちの茶を飲んだあとや
棚に並べられた三線をながめていると
だいぶたつてからお兄さんが出てきた

「あー、サンシンのウマありますか？」
三本の弦を支える二センチほどの
平たいちいさな部品をウマという

お兄さんは引き出しをあげながら
「竹のねー？ プラスチックのねー？」と聞く
「竹のを下さい」
「一頭？ 二頭？」
「……………」
（あ、馬だからか）一頭下さい」
「はい、ウマ一頭」

こんなにちいさな竹でできたウマが一頭か
いいなあ
この馬がしっかり立っていないと
三線は歌わない

戦火でも焼けなかった沖縄の伝統を引っばる
ときには沖縄そのものを引っばる
ちいさくて巨大な馬
のんきな店の引き出しの中で
ガサゴソと生きている

芝 憲子